

広報

あまのい (天の医)

2025

創刊号 (夏号)

No.1



天安河原 (高千穂町)

日本神話において天照大神が天岩戸に隠れた際、八百万の神々がここに集まり、どうすれば天照大神に出てきてもらえるかを相談したと伝えられる地です。



西臼杵医療センター

NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

巻頭あいさつ

～医は仁術？～

センター長（西臼杵広域行政事務組合 病院事業管理者）の「寺尾公成」でございます。お待たせいたしました。この度満を持して、西臼杵医療センターの広報誌「広報 あまのい（天の医）」の創刊にたどり着くことができました。待っておられた方にも、たまたま目に触れた方にも、同様にご挨拶申し上げます。

当センターは令和6年4月に発足し、目下2年目の運営が進行しているところであります。「経営統合」と「機能再編」を旗印に、3つ（高千穂・日之影・五ヶ瀬）の国民健康保険病院（以下、国保病院）間で綿密な情報共有や活発な意見交換が図られ、チョットずつではありますが、医療態勢に変化（進化？）が見え始めてきたのではないかと実感しています。

さて、「医は仁術」と申しますが、これに対して異論を唱える人は多分に少ないと思われます。もちろん私も賛同します。がしかし両手を挙げて賛成かと問われると、「チョット待て！」といった気持ちが

ないわけでもないのが正直なところですよ。というのも、医療界に身を奉じる者であれば誰しもが知るフローレンス・ナイチンゲールの数ある名言の中に、「犠牲なき献身こそ真の奉仕である」という一節があります。一定の組織が運営されていくには、犠牲的精神に頼るだけではなく、仕組みの構築、言い換えるならば、科学的根拠に基づいた組織運営が必要ではないでしょうか。すなわち、「医は仁術」と「犠牲なき献身こそ真の奉仕である」の組み合わせこそが、私の医療論「医療とは、理路整然とした科学と心溢れる情熱の融合である」に通じているように思えるのであります。

高千穂に代表される西臼杵地区は「八百万神々の聖地」と称され、「伊弉諾尊（いざなぎのみこと）」「伊弉冉尊（いざなみのみこと）」「天照大神（あまてらすおおみかみ）」「瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）」「木花開耶姫命（このはなさくやひめ）」「神武天皇（じんむてんのう）」などなど数多の神々にゆかりある地としてその名を馳せています。そんな八百万神々の聖地で地域医療の進化が展開されていくことを願って止みません。

今後とも、西臼杵医療センターの広報誌「広報 あまのい（天の医）」へのご助言、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

“医療とは、理路整然とした科学と

心溢れる情熱の融合である。”



令和7年7月吉日
西臼杵医療センター
センター長 寺尾公成

西臼杵医療センターについて

西臼杵郡3つの国保病院統合の沿革

宮崎県北部に位置する高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町の3町で構成される西臼杵郡の人口は現在16,482名と、この30年余りで約4割減少しており、今後、病院を利用する患者さんも減ることが予測されております。また、西臼杵郡の人口10万人あたりの医師数（144名）は全国平均（269名）や県平均（269名）の半分程度であり、その数も減少傾向にあります。このような状況が続くと、今後西臼杵郡では、今の水準の医療を提供していくことが困難になる可能性が出てきます。

こういった課題に対し、3つの国保病院の経営をまとめ（経営統合）、役割分担（機能再編）を進めることで、今後の西臼杵における医療提供体制を維持していくことを目的とし、令和6年4月から新体制での3つの国保病院の運営が開始されました。

西臼杵郡3つの国保病院共通の基本理念及び基本方針

〈基本理念〉

西臼杵地域の住民皆様の病院として安全で質の高い包括的医療を提供するとともに、地域から信頼され愛される病院を目指します。

〈基本方針〉

- 地域に開かれた病院であり、住民の皆様にとって快適な病院を目指します。
- 地域に必要とされる救急医療体制、在宅・終末期医療体制等の充実に努めます。
- 地域住民中心の保健・医療・介護体制を構築することで地域包括ケアシステムを推進します。
- 常に研鑽し医療水準の向上に努め、住民の皆様から信頼される人材を育成します。
- 西臼杵地域における、持続的な医療提供体制を維持するため、病院の健全経営を目指します。

組織体系

複数の地方公共団体（市町村など）が行政サービスの一部を共同で行うことを目的として設置する一部事務組合（行政機関）で**地方公営企業法を全部適用**しています。

職場紹介（運営管理局）

西臼杵広域行政事務組合病院事業（通称：西臼杵医療センター）の運営管理局は、西臼杵郡内の3つの国保病院の円滑な運営をサポートするために設置された組織です。病院の経営戦略の策定や、人事・労務管理といった業務を所管しており、地域医療の質の維持・向上に注力しています。西臼杵医療センターの初代センター長には、宮崎県立延岡病院前院長の寺尾公成が事業管理者として就任しました。

そして、センター長の直下に配置された運営管理局の職員は、高千穂町役場から3名（うち1名は宮崎県へ出向中）、日之影町役場から1名、五ヶ瀬町役場から1名、宮崎県から1名の出向職員が、そして会計年度任用職員1名の7名で構成されています。主な業務としては、3つの国保病院の連携を強化するための会議体の運営や3町役場との各種課題の調整等があります。また、これにより、地域全体で医療課題に取り組む体制を構築しています。また、地域医療を支える医師をはじめとする医療人材の確保にも積極的に取り組んでいます。



お知らせ

見学受入れ

西臼杵医療センターでは、医療職を目指す学生さんをはじめ、様々な方の見学を受け入れています。今回、聖心ウルスラ学園高等学校の生徒さんの受入れを行い、当日は、実際の診療現場を職員が案内し、それぞれの職種がどんな仕事をしているのかを紹介しました。参加された皆さんは説明に熱心に耳を傾け、『将来こんな医療現場で働きたい』など、嬉しい声もいただきました。私たちにとっても、未来の医療人と触れ合える貴重な時間となり、大きな刺激をもらいました。これからも地域に開かれた病院として、こうした見学・交流の機会を大切にしていきたいと思ひます。



感想紹介

感想① 西臼杵医療センターでの見学を通して、地域医療の重要性と看護師としての役割の幅広さについて深く学ぶことができました。今回の見学を通して、地域に根ざした医療・看護の大切さを実感し、将来はこのような医療現場で活躍できる看護師になりたいという思いが一層強まりました。



感想② このたびは、病院見学の機会をいただき、誠にありがとうございました。見学を通して、病院のあたたかい雰囲気や、職員の皆様の患者さんに対する丁寧で親身な対応に深く感銘を受けました。地域に根ざした医療機関として、住民の方々に寄り添いながら医療を提供されている姿勢が随所に感じられ、私自身もこのような医療の現場で働きたいという思いがより一層強まりました。また、職員の方々がそれぞれの専門性を活かしながら連携し、患者さん一人ひとりに最適な医療を届けようとする姿から、チーム医療の重要性を実感することができました。見学中には丁寧にご説明いただき、質問にも親切に対応してくださり、心より感謝申し上げます。

タイトルに込めた思い

この度、西臼杵郡の3つの国保病院を統括する「西臼杵医療センター」の広報誌タイトルを「広報 あまのい(天の医)」といたしました。この名称には、私たちの地域に対する深い願いと、医療への強い決意が込められています。西臼杵郡は、神話の里として知られ、特に天岩戸神社を擁する高千穂町は、日本神話における重要な舞台です。古来よりこの地に伝わる神話では、天照大神が天岩戸に隠れた際、世界が闇に包まれましたが、やがて光が差し込み、再び明るい世が訪れました。「あまのい」という言葉は、この神話の光の回復を象徴する「天(あま)」と、医療の「医(い)」を組み合わせたものです。

編集後記

初めての発行ということで、手探りでの制作となりましたが、こうして形にすることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この広報誌では、私たちの日々の取り組みや、職員の素顔、地域とのつながりなどを、少しずつ紹介していけたらと思っています。「医療センターってこんな職場なんだ」と感じてもらえたら嬉しいです。次号はもっとパワーアップしてお届けできるよう、がんばります。どうぞ、これからもよろしくお願いいたします！
広報担当 廣本旭悦



西臼杵医療センター
NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

〒882-1101
宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井435番地1
TEL: 0982-73-1715
FAX: 0982-73-1718
URL: <https://www.nishiusuki-hp.jp/>

